

理想の介護を目指して練った事業計画が認められる



正看護師免許を取得した後は、鷹岡病院へ戻りました。2年目からは主任となり、4年目には県下初の認知症患者療養病棟（現老人性認知症患者治療病棟）ができ、その病棟の看護課長になりました。課長として勤務していた頃は、それはもう忙しかったですね。勤務表を作ったりと、管理業務にも追われていました。看護に関しても、規模の大きな病院になると、マンツーマンというわけにはいきません。ですが私は、やるべきことは患者さん一人ひとりを理解し、寄り添うことだと感じていたんです。それで、自分の理想とする介護を実現したいと思い、約10年の勤務を経て起業する決心をしたわけです。

起業するにあたっては、経営者として一から学ばなければならないと考え、1年間で27の研修を受けました。お茶の出し方、名刺の出し方、電話対応の仕方などから学んだんです。この新人研修では様々な方との出会いがあり、「起業の際には協力するよ」と声を掛けていただきました。私の学ぶ姿勢が幸運な出会いを与えてくれたのかもしれないですね。

それと、起業する際に必要になるものはやはり資金です。私には起業できるほどの資金も担保もなかったんで、銀行と借入れの交渉をしなければならなかったんです。時間は十分にありますが、施設の建設から運転資金、人件費など実際の運営、返済計画などについて細かく計算し、自分なりに事業計画を練りました。それは、私が理想とする介護を形にするためにはどうすればいいかを考える作業でもありました。そして、完成した事業計画と私の介護への思いが銀行を動かし、1億2000万円の借入れをすることができたんです。

当初イメージしていたのは、グループホームとデイサービスからなる施設です。それが、市の介護保険課で「小規模・多機能サービス」について知ったんです。これは、平成18年度から新たに始まった制度で、利用者や家族の状況に応じて「通い」「泊まり」「訪問」など様々な介護サービスを24時間365日提供するというものです。介護が必要になっても、住み慣れた地域で自分らしく暮らせるよう、高齢者の生活エリアに密着してサービスを行えることを知り、「これは私のやりたいことだ」と思いましたね。そう思って生まれたのが、グループホームと小規模多機能型居宅介護からなる「2人3脚」です。

看護師ならではのスムーズな医師との連携も強み
